



BP1プログラム効果報告

「親子の絆づくりプログラム」の効果の科学的検証 その2

JCHO大阪病院小児科医長・桃山学院教育大学教授 原田 大輔

「子育て仲間づくり」に与えた影響を検証

本会報の読者の中には親子の絆づくりプログラム「赤ちゃんがきた！」(BP1)の内容を熟知し、その効果を実感しておられる方も多いかと思いますが、プログラムの客観的な効果を知ることは重要です。また、プログラムを知らない方々や初めて実施する方々には、BP1プログラムの検証結果を知っていたく機会が必要だと感じています。

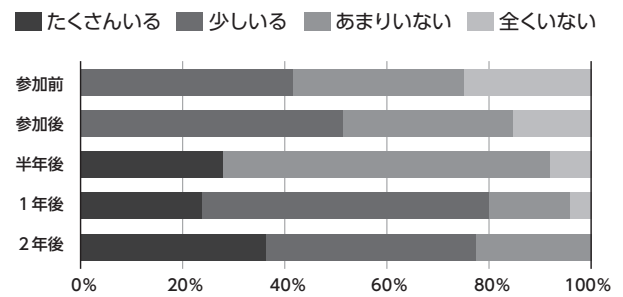
昨年、BP1が初めて0歳児を子育て中の母親である参加者に対して、十分な満足度が得られていることや「親子の愛着形成」、「育児知識の習得」、「子育て仲間づくり」という大きな柱が参加者に伝わったという検証結果をお伝えしました(KKI会報2022年9月号p2-3)。また、参加者の満足度には「参加者どうしの交流が最も強く影響を与えていることもわかりました。本稿では主に雑誌「チャイルドヘルス」(2020年24巻p535-539)に発表したものを中心に、BP1が参加者の「子育て仲間づくり」に与えた影響の検証結果をご紹介します。

この調査では、BP1が参加者に与える中長期的効果を検証する目的で、BP1終了後の参加者にアンケート調査票を送付し、その結果を集計して検討しました。対象は2012年から2015年の間にJCHO大阪病院で開催した合計10回のBP1に参加した合計163名の母親、およびコントロール群として乳児期後期の第一子を子育て中のBP1不参加の母親127名です。回答を求めた時期ごとの対象者数は、BP1参加前・直後が38名、BP1参加半年後が30名、BP1参加1年後が33名、BP1参加2年後が62名でした。調査票の回収率は全体で65.0%でした。

「BP友だち」は大きな財産

まず、一般的に「ママ友」との交流についての調査結果を紹介します。「普段会ったり話したりするママ友がいるか」との問いには、参加前後に「いる」との回答は約半数でしたが、参加半年後には92.0%に上昇しました(図1)。これは同時期(乳児期後期)のBP1不参加の母親(58.3%)を大きく上回っていました。この結果から、BP1参加者はプログラム参加後から半年後まで、仲間づくりが継続して促進

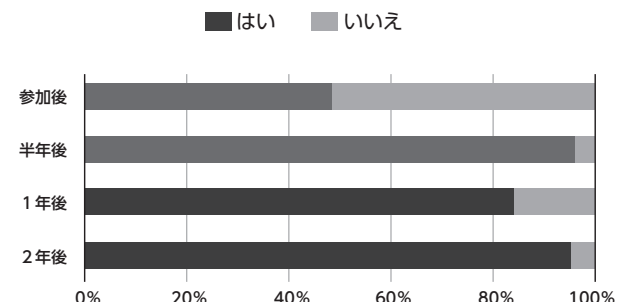
図1 あなたには普段会ったり話したりするママ友がいますか



されたことが示されました。

次に「BP1参加者との、プログラム以外での交流があるか」を問いました。「交流している」と回答したのは、参加直後は48.5%でしたが、参加半年以後には約9割になり、参加2年後にも95.5%の参加者どうしの交流が続いていることが判明しました(図2)。参加者どうしの交流は、プログラム中の4週間のみならず、少なくとも参加2年後まで継続されていることがわかりました。この要因としていくつか推察できることがあります。一つ目は、出産後に母子カプセル状態の中での数少ない同世代との新たな出会いが参加者にとって有意義であったこと。二つ目は、すでに共通体験として子育て開始時期を過ごしてきた母親どうしの出会いであること。三つ目は、構造化されたプログラム内に組み込まれている効果的な仕掛けによって、参加者が自分の境遇や普段の生活を具体的に出し合える関係性を築けたこと、などが影響したのではないのでしょうか。

図2 BP参加者とプログラム以外での交流はありますか



そのため、BP1で出会った参加者どうし(「BP友だち」)がプログラム参加後、長期間にわたり重要な人間関係になっていったと考えられました。

BP1は参加期間中の育児支援だけではなく、その後においても「BP友だち」が自主的にお互い連絡をとりながら助け合い、共に育児を行うことへのきっかけとして機能していることをうかがい知ることができます。また、子ども達は「同級生」であり、発達段階、健診、入園・入学、習い事など同じタイミングでライフステージを進んでいきます。実際、父親も含めた家族ぐるみで交流している事例も数多く存在しています。「子育て」という人生の重要課題を共に乗り越えていく「BP友だち」は、大きな財産になっている可能性が高いと考えられます。

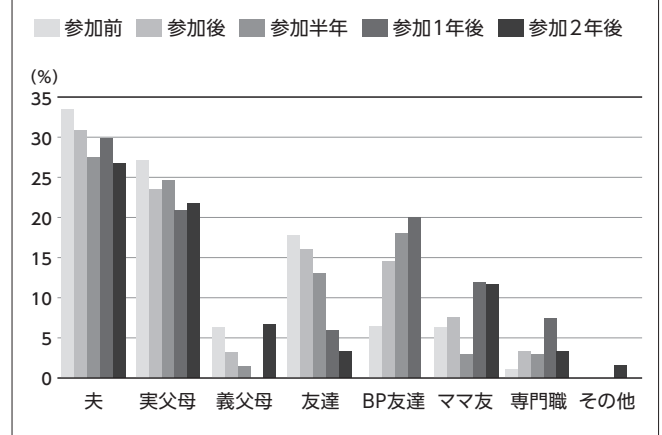
同じ境遇の人どうしのつながりを促進

次に、「育児について誰によく相談しますか」と問いました(図3)。その結果、第1位は夫、第2位は実父母の順でした。BP1参加前から2年後に至るまでその順は変わらないものの、「夫」(参加前33.3%→参加半年後27.5%→参加2年後26.7%)や「実父母」(参加前27.1%→参加半年後24.6%→参加2年後21.7%)の占める割合は減少しました。また、BP1参加前後では第3位であった「友だち」も時間の経過とともに減少した一方で、乳児期後期以降にかけて「BP友だち」(参加前0%→参加半年後14.5%→参加2年後20.0%)や「ママ友」(参加前6.3%→参加半年後2.9%→参加2年後11.7%)の比率が上昇し、合わせると3割前後を占めました。さらに、「BP友だち」がその他の「友だち」と入れ替わり第3位になっています。これらは、子育てという共通体験をしている「BP友だち」と「ママ友」とのつながりが強まったと同時に、子育てのプロセスを共有していない「友だち」は育児の相談対象から外れたと推察されました。これらから、BP1は第1子の子育てをしている最中であるという同じ境遇をもつ参加者どうしのつながりを強力にうながしたと考えられました。

BP1の基本的な考え方は、子育てをしていく中で親が親として育てていくことを手助けすることです。具体的には、プログラムを通して同じように初めて子育てをしている母親どうしをつなげ、少し先の育児を学び合い、BP1終了後もお互いを支え合えるように構成されているともいえます。現在各地で行われている一般的な子育ての集い等では1回のみ開催やランダムなメンバーとの出会いが多く、その出

会いが後々まで継続しにくいのに対して、BP1は4週連続のプログラムであること、プログラム内に自身の悩みや境遇を共有し合う機会が設けられていること、お互いに理解しあえる時間が確保されていること、などが継続しやすい出会いを提供できている大きな要因であると考えられます。

図3 育児について誰によく相談しますか



仲間づくりの効果はプログラム終了後も持続

今回の調査で、BP1プログラムの「子育て仲間づくり」への効果は、プログラム実施中のみならず、プログラム終了後も長期的に持続していることがあらためて示されました。また、BP1に参加し「BP友だち」とつながりが持った経験は、BP1以外の場面でも積極的に仲間づくりすることを促したと推察されます。したがって、BP1に参加することで、中長期にわたる「子育て仲間づくり」が達成できたと考えられました。

全国のBP1ファシリテーターのみなさんの努力によりBP1がひとりでも多くの母親に届くことにより、本当の意味での子育て支援(親支援)になり、点と点がつながりあい線や面になっていけば、現代日本の子育て環境が改善していくことが容易に想像されます。一方で我々のようなプログラムを開発・運営する側の役割としては、プログラムの質の維持を行うとともに、時代の変化にともなった改良を常に行っていく必要があります。そのためには、このようなプログラムの科学的検証を継続することの重要性をあらためて実感するとともに、BP1ファシリテーターのみなさんをはじめとしてBPプログラムの普及にご尽力いただいている方々のよりどころとしていただけるよう、今後も報告していきます。

